



月刊 部員新聞

2007年8月
第22号

編集・発行 Unit

負けたのに楽しかった？

劇的な決勝戦を迎えた夏の甲子園も終了しました。敗北したチームでも試合後のインタビューでしっかりと受け答えをしている姿もありました。

しかしこの中で気になることがあります。インタビューのレベルの低い質問にも閉口しますが、競技者が「楽しかった。」という意味の言葉を発することが多かったことです。

勝利したチームの競技者が発するならば理解もできますが、敗北したチームの競技者が発するのは理解ができません。楽しかったことよりも、負けて悔しいという気持ちが先に来るのではないのでしょうか。

なぜその言葉？

高校野球だけではなく最近いろいろなスポーツ中継でインタビューされた競技者が、特に敗北した人に多いのですが、よく発言する言葉が「楽しんでできました。」ではないでしょうか。

ぱっと聞いたときにはよい言葉のように聞こえますが、楽しむ余裕があったのであればもう少し競技に集中できたのではないかと、うすれば負けることもなかったのではないかと。

と考えてしまいます。競技を中継しているアナウンサーまでもが「競技を楽しんでもらいたい。」というようなことを言い出している。「がんばれ」を連呼するのともうかと思いますが、この言葉も競技を行っている競技者に対して、安易に使ってもらいたくはないです。

言葉の裏側

競技者は勝つためにいろいろな努力をしているはずですが、それでも勝てなかったことを本当に悔しく思わないのであれば、競技者としては失格でしょう。

この言葉を発する裏側にあるものは、格好が悪いから悔しくしているところを見られたくない。自分の気持ちを他人に見せたくない。あるいは敗北したことからの逃避するためなどではないでしょうか。

敗北したことをしっかりと受け止めることが、競技力をさらに向上させるために必要なことではないでしょうか。

なぜ広まったのか

やはりマスメディアの影響が大きいと思います。当初は勝利後のコメントとして使われ出

したのではないかと思えます。

しかし敗北した後のコメントとして聞こえもよく、自分を隠すためには都合のよい言葉ゆえに広まっていったのではないのでしょうか。

そして競技に精通していないインタビュー者が使い始めたことによつてさらに広がっていったのではないかと思えます。その人の状態を引き出すインタビューがこのような質問をして果たして競技者は本音を話してくれるのでしょうか。

「どうでしたか？」という言葉もそうですが、本音を引き出す仕事のインタビューが使用してはいけない言葉なのではないのでしょうか。

コーチの気持ち

コーチの側から考えるとこの言葉は非常にがっかりさせられます。

「おまえは楽しむためにこの大会に来たのか。勝つために来たのではないのか。」と思うのではないのでしょうか。

私がコーチならば競技レベルからして勝利は難しかったとしても、「楽しかった」と発言している競技者は、さらに上を目指してトレーニングをすることができののだろうかと考えてしまいます。

精神論ではないけれど

競技力を構成する要素に精神力もあります。楽しく練習をすることも必要です。しかし普段から悔しさを

感じ、常に上を目指してトレーニングを続けることが競技者として必要な要素なのではないのでしょうか。

オリンピックや世界選手権など国際大会に参加する競技者の中にも勝利をすることが目的ではなく、参加することが目的になつてしまっている競技者も少なくありません。

「参加すること」に意義がある。「ではなく、いまは「参加するのは当たり前。勝利すること」に意義がある。」となるのではないのでしょうか。

参加することが目的ではなく、勝利すること目的にならなければ、一人一人の競技力、ひいては日本スポーツの競技力の向上に繋がらないのではないのでしょうか。

乳酸測定をしてみませんか？

2007年9月15日(土)、16日(日)の午前中にトレーニング施設を使った乳酸測定を行います。

そこでこの部員新聞をお読みの編集者の方を無料でご招待いたします。

乳酸測定自体は知っていても実体験のない方は結構いらっしゃるのではないのでしょうか。この機会に体験されてはいかがでしょうか。結果の返却から希望者にはトレーニングアドバイスも行います。

先着順の人数限定ですので希望される方は電子メールにてご連絡ください。折り返し詳細をお伝えいたします。

Unit 代表 澤野 博 (さわの ひろし)

日本体育大学卒。社会人経験を経て欧州へ留学。乳酸を中心としてトレーニングを幅広く学ぶ。帰国後、部員となって競技者を支えるという意味で「Unit」を設立。競技種目、競技レベルを問わずトレーニング指導を中心に活動。医療系国家資格の臨床検査技師の資格を持つ異色のトレーニングコーチ。

ご意見、ご要望、仕事依頼、お問い合わせは下記まで。

0422-34-5055 (Fax 兼用)、090-1999-2845 または sawano@team-unit.com